

医療情報室レポート

1998年10月30日

福岡市医師会医療情報室
TEL852-1501・FAX852-1510

特集：推薦議員の活動内容

低迷する経済状況、悪化の一途をたどる医療環境を反映し、政治離れが加速しています。しかし、安定した医療供給体制堅持のため、本会では医師会活動に賛意を示す議員を推薦し支持しています。今回、本会が推薦する国会議員・県議会議員の日頃の活動内容や社会保障問題に対する考え等について会員の皆様にお知らせする特集を組みました。

本会が推薦する国会議員・県議会議員（敬称略）

国会議員：衆議院議員	山崎 拓	県議会議員：東区選出	林 武彦、藤本 顕憲、今林 久
衆議院議員	太田 誠一	博多区選出	井上 雅實、新宮松比古
参議院議員	吉村剛太郎	中央区選出	早麻 清蔵、内田 壮平
		南区選出	高山 久生
		城南区選出	橋詰 和元、武藤 英治
		早良区選出	古川 忠、横田 進太
		西区選出	田中 久也

各議員にお願いした内容

1. 所信、2. 主たる政治活動内容、3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動、関心事等について、国会議員800字程度、県議会議員600字程度でご報告をお願いしました。

各議員からの報告

山崎 拓 衆議院議員

1. 所信

日本経済は、深刻な後退局面にあります。内需の不振は、政治への不信からくる国民の将来への不安に根差しています。少子高齢化時代の足音は日増しに大きくなっています。雇用は、年金は、老後は、病気になったら、という不安に応えるのは、政治の最大の任務です。経済再活性化は需要面や消費面（デマンド・サイド）へのテコ入れの基盤固めを急がなければなりません。投資や企業活動を活性化し、国際競争力を揺るぎないものにする供給面（サプライ・サイド）の政策も重要です。金融再生への取組みにも見られるように、政治は機動性と指導力を求められています。

2. 主たる政治活動内容

「政治」主導に誤りなきを期すため、同憂の士による本格的な政策集団の結成に踏み切ったのは、上記の理由からです。私たちは、99年夏を目途に「近未来研究会」を足場として、日本のどこをどう変えるべきか、のビジョンを組み立てていきます。出発点は、小渕新政権が標榜している生活空間の倍増と、私がかねてから主張している新大型イノベーション（技術革新）誘導の構想となるでしょう。政治の威信回復による、将来への不安解消が基盤となります。

3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動、関心事

医療制度については、高齢化の進展に伴う医療費の増大により医療保険制度の財政が大幅な赤字構造となっている中で、21世紀の少子・高齢社会においてもすべての国民が安心して良質な医療を受けられるよう、医療提供体制、医療保険制度の両面にわたって抜本的な改革を進めていかなければなりません。

2000（平成12）年度より導入されることとなった介護保険制度は、高齢者が介護が必要な状態になっても自立した生活を送ることができるよう社会的支援を行う仕組みであると同時に、福祉と医療に分かれている高齢者介護に関する制度を再編成するという意味で、社会保障構造改革の第一歩として位置付けられるものであります。

テーマ：推薦議員

今後、その円滑な実施に向けて準備を進めるとともに、引き続き、介護サービスの供給体制の整備を推進していく必要があります。

さらに、質の高い福祉サービスを効率的に確保していくため、社会福祉事業、社会福祉法人など社会福祉全般を支える基礎構造を抜本的に改革し強化を図ることが求められています。障害保健福祉施策については、障害者の自立と社会参加を推進していくとともに、身体障害、知的障害、精神障害の3つの施策の総合化を図る観点からの全般的な検討が必要となります。

太田 誠一 衆議院議員

竹嶋会長をはじめ福岡市医師会の先生方には平素からご支援を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

初、私もやや遅ればせながら去る7月30日小淵内閣の発足と共に国務大臣、総務庁長官、中央省庁等改革担当大臣として入閣することとなりました。国難とも言われるこの時期でありますからその責任の重さを痛感する一方、かねて希望していたこのポストに就くことができたのは男子の本懐であり、18年間の先生方のお支えに改めて感謝致します。

私の毎日は、朝8時か9時に総務庁長官室に入り、その日によって国会答弁に出たり、閣議に出席したり、総理を含め関係閣僚と打ち合わせをしたり、自民党本部に説明に行ったりしますが、大半の時間は総務庁の幹部の報告を聴き指示を出し決済をすることに費やされています。

中央省庁等改革推進本部は総務庁から車で5分の貸しビルの中であって、130人ぐらいの各省選りすぐりの若い官僚がフル稼働して、行政改革の法律案づくりや各省への根回しに走り回っている最中です。

総務庁長官は、各省の行政の運営を監視し、定員を査定し、機関の新設や廃止を審査するのが任務ですから、閣議で各大臣に対して注文をつける発言機会が多くなります。

各省庁を監察して、問題点を指摘し、改善を求める勧告を出す際には、相手の大臣に直接手渡しすることにしました。

中央省庁等改革推進本部には週1回ぐらい出かけて行き、若手官僚達と論争することを楽しみにしています。

私は、国民と政府・国民と官僚の関係を改めるべきことを一貫して主張してきましたが、正に今その仕事に就いており、これまでの主張のどれだけを反映できるのか自分自身の真価を試されていると考えております。何卒先生方の変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

吉村剛太郎 参議院議員

会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

さて、先般の第18回参議院通常選挙に際しましては、貴会のご推薦と、並々ならぬご支援を賜り心より御礼申し上げます。お陰様で私も無事再選を果たすことが出来ました。

しかしながら、我が自民党はご存じのように比例区に於いて、宮崎秀樹先生を当選させることが出来なかったのを始め、全国的には惨敗を喫しました。選挙前は参議院で119議席を保持しておりましたが、結果は15議席減の104議席に留まりました。

選挙戦では何とか参議院に於いても是非過半数（127議席以上）を頂きたい、そして、その力をもって当面する諸課題、特に不況対策に取り組ませて頂きたいと訴えた次第でありますが残念でなりません。

早速臨時国会で、焦眉の急である金融関連法の審議が迷走を強いられています。これは、参議院での大きな過半数割れが、過半数を持っている衆議院にも影響し、野党に押しまわられているからです。政府や与党の姿と責任は何処に存在するのか、参議院即ち二院制はどうなるのか等、基本的な問題を提起しております。

さて、急速な人口の高齢化、医療の高度化等により、医療費は増大を続ける一方で、経済基調は変化しております。このため、医療費の伸びと経済成長との間に大きな不均衡が拡大しております。

21世紀の少子・高齢社会に於いても、全ての国民が安心して良質な医療サービスを受けることが出来るような国民皆保険制度を堅持するためには、医療保険及び医療提供体制の両面にわたる抜本的な改革が必要と思われれます。

政府としても「21世紀の医療保険制度」を公表し、診療報酬体系、薬価基準制度、医療提供体制、高齢者医療制度等の検討を目指しております。そして、医療提供者である皆様のご意見を中心に、貴会をとりまく諸課題解決に取り組んでまいり所存であります。

最後に、貴会の益々のご発展と会員諸氏のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

林 武彦 県議会議員

1. 所信

県民の暮らしを守り豊かにするために

21世紀を展望した総合的な福祉政策と新しい産業を育成し活力と躍動感あふれる県政の推進に努めてまいります。

2. 主たる政治活動の内容

総合的な医療・福祉サービスの充実を図り、はつらつとした高齢化社会・障害者対策をすすめ、生涯あんしんの福岡県づくりに努力しています。

総合交通体系の整備をすすめ、特に高速交通網の整備・促進に努力しています。

地域環境の整備と経済の活性化に努めています。

21世紀に向けた人材を育成するために個性と創造性豊かな教育環境づくりに努めています。

3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動・関心事

県民の医療・保健・福祉の充実のために医師会のご意見を尊重し更に努力を重ねてまいります。

テーマ：推薦議員

高齢化社会を迎え老後を安心して暮らしていただくために平成12年度からの介護保険制度の円滑な導入に向けて「介護支援専門員」の養成等に努めてまいります。

藤本 顕憲 県議会議員

1. 所信

私は市議会12年間の活動に於いて『市だけでは出来ない市政がある』ことを痛感し、より一層の市民の幸福を願い、県議会への参画をお訴えしてきました。

福岡市の宿命である水問題、広域交通ネットワークの形成等、解決すべき課題は少なくとも県民全体の御理解と共感なくしては解決し得ないと判断したからです。そして又、県税4,500億の中で福岡市民の負担50%、福岡都市圏で65%、この圧倒的県政への市民の負担を識る時、とかく誤解を招いているひとりよがりと思われがちの福岡市の発展、市民一丸となつての努力が、実は県勢に大きな貢献をしている事実をお訴えしたかったのであります。福岡市の活力が県財政を支えてきたのです。

医療・福祉・保健の分野では、少子高齢化に備えた改革が検討されています。又、地方分権の叫びの中で県域も両政令都市圏と郡部では人口バランス、市町村の財政に大きな格差があります。

私はその現況の中で現行の医療保険制度の堅持を前提に財源確保、介護保険の円滑な導入の為の基盤整備、県民総ぐるみの健康づくりの展開などについて市民と県のパイプ役として全力を尽くしたいと考えております。

2. 主たる政治活動の内容

党の政策審議会役員として又議会の行財政改革推進特別委員会委員として重要施策の決定に参画し、保健、医療、福祉施策の充実強化と連携強化の為の組織再編や、高齢者保健福祉計画、県市保健医療計画等の各種計画の策定と実現促進に積極的に取り組んできました。

3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動・関心事

高齢社会の急速な到来により社会保障全体の財政が肥大化する中で、厳しい財政問題が併存する状況にあります。従って医療福祉の諸施策が埋没しない様に頑張らなければなりません。

以下強い関心をもつ各事項を列記し、全力で取り組み努力してまいります。

- 保健・医療・福祉サービスの連携強化
- 医療施設の機能分担と連携システムの整備
- 療養型病床群の整備促進
- 介護保険制度の円滑な導入及び基盤整備
- 少子化対策としての子育て支援体制の整備

今林 久 県議会議員

1. 所信

何より地域の代表たるべく、皆さんの欲しておられる事を知るよう努めることが第一と考えています。次に、県政に対して予算がどのように使われているかをチェックすること。特に生きた使い方がなされているかという点をしっかり考えています。第三に、時間の余裕がある限り、小生で役に立つ事があれば、走り廻ること。このようなことを、心がけています。

2. 主たる政治活動内容

主たる政治活動内容は、1期4年間を通じて、厚生委員会に所属し、現在はその副委員長として、委員会の運営に当たっています。何より執行部職員の方々との交流が、かけがえのない財産であると考えております。医療審議会や児童福祉審議会や福祉の町づくり審議会等、勉強させてもらいながら審議に加わらせてもらっています。また、国際化議員連盟の事務局長としても、対外的な行事や活動の御世話を行っております。

3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動、関心事

これからの政治は、少子高齢化という、人口構造の変化にどう対応していくかということが大きな柱の一つであると思っています。特に、高齢者が、住み慣れた地域で安心して老後を迎え、人生の終わりを迎えらるよう、福祉・保健・医療が一体となった住み易い地域づくりが大切であると思っています。そのための社会保障制度の充実や施策をきっちり行う必要があります、その一助になるべく私も活動をすすめていきたいと思っています。

新宮松比古 県議会議員

所信

麻生県政が目指しています、「活気あふれるはつらつ福岡」の県政発展のため県議会与党第一党の自民党県議団の会長として汗を流している毎日です。

県民の皆様が豊かさを実感していただくため21世紀に向かって次にあげる七つの分野で県政発展の推進をはかると考えています。

- 世界に開かれた交流拠点の形成
- 多様性と創造性に満ちた産業づくり
- 地球的視野に立った環境保全と必要な整備の推進
- 心豊かな青少年の育成と教育の環境整備
- 高齢化社会に於ける生涯学習を含む施策の整備
- 参加と連帯による分権型の行財政のシステムづくり
- 健やかで心豊かな福祉社会づくり

テーマ：推薦議員

に於ける保健・医療・福祉社会づくりについて私見を述べさせていただきますと健康・医療・福祉サービスの一体的な提供と充実、その為のシステムづくりと人材の養成と確保を推進することが急務であり、ホームヘルパー養成研修事業や看護職員確保対策事業・介護保険対策事業に県として積極的に取り組むべきであると思います。

又がん・心臓病・脳卒中等の生活習慣病による死亡率が高く、その予防と早期発見・早期治療を医師会の協力のもと推進をより図っていくこと。

並びに、休日夜間急患センター、病院群輪番制病院及び救命救急センター施設の設備に対する補助や患者の療養環境、医療従事者の職場環境・衛生環境の改善に配慮した施設の整備に助成し、適切な医療体制づくりに協力したいと存じます。

以上要約だけを述べましたが、医師会推薦議員の皆様方と協力して、医師会のご要望に今後も努力いたしますこととお誓いしご挨拶いたします。

早麻 清蔵 県議会議員

もう周知のことですが、21世紀初頭には、我が国は世界に類を見ない高齢社会となります。4人に1人が65歳以上の高齢者です。

つまり、残る1人は子供ですから、2人で1人の高齢者を支えていくこととなります。若い人、働き盛りの負担が大幅に増えるわけです。

こうした負担をなるべく少なくするためにも、社会福祉や医療体制への公的支援は不可欠となってきます。

私は「在宅看護」が理想と考えております。親を子が看取ることが基本にあるべきではないでしょうか。その際、世話する側の負担をいかに軽くするかが課題です。

そのために、私はホームヘルパー派遣などの福祉施設の充実を常に念頭において活動しています。さらに、三世同居などを実現するために住宅対策も進めるべきと考えています。

一家内に子供の声が響くことで生き活きた雰囲気を作れるのではないのでしょうか。親、子、孫が共に暮らすことで礼儀等の躰も自然と身につけてきます。

福祉社会の充実は一朝一夕では図れません。ひとつひとつの積み重ねが必要です。だれもが恩恵を分かち合う社会を実現せねばなりません。

「牛歩」。歩みはのろくてもしっかり踏んばって、歩を進める政治を続けたいものです。

内田 壮平 県議会議員

1. 所信

福岡市医師会の諸先生方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成7年の県議選で2期目の県政壇上に送って頂き早3年半が過ぎようとしております。人は生かされているのだから、感謝と無私をモットーに県議をさせて頂いているという信念でこれまで政治活動に頑張っておりました。これもひとえに福岡市医師会の諸先生方をはじめ多くの県民の皆様のご理解とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

これからも初心を忘れず誠心誠意県政発展の為に尽くす覚悟でございますので、皆様方のご指導ご鞭撻の程心よりお願い申し上げます。

2. 主たる政治活動内容

現在、県議会文教常任委員長を拝命致しまして、選挙公約の一つに挙げておりました「教育問題」に真剣に取り組んでおります。特に心の教育 文武両全 開かれた教育：これら3つの抱負の実現の為に、教育改革をすすめているところであります。

その他にも、国際空港誘致の問題、私学や定時・通信制教育の振興、更生保護の問題、国際化の推進、防衛議連の事務局長として防衛思想の啓発や、2002年に導入が検討されております、小学校での英語等教育の普及等に全力で取り組んでいるところであります。又、毎議会一般質問の中から、環境問題や福祉の問題は勿論のこと県の行財政改革や経済対策の抜本的施策についても改革をすすめているところであります。

3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動、関心事

平成7年から2年間、厚生常任副委員長として医療・福祉・保健・環境問題等には真剣に取り組んで参りました。特に高齢化、少子化を迎えた現在の医療・福祉政策に高い関心を持って参りますし、中央区に老人福祉施設の実現に今後も市と連携しながら頑張ってお参りたいと存じます。又、2000年にスタートする介護保険制度に対する県としての対応を、市町村とよく話し合いながら早急に打ち出す必要があると考えます。

最後になりますが、特に心身に障害のある方々からの相談が多く参りますが、こういう恵まれない方々の為の福祉施策、法整備や施設の拡充等に今後取り組んで参りたいと考えております。

高山 久生 県議会議員

1. 所信

21世紀を目前にしながらも、今日、わが国では政治・経済・社会ともに、これまでにない変革の時を迎え、暗中模索の状況が続いています。

特に、世界に例をみないスピードで到来しつつある高齢社会の問題は医療・福祉・保健の分野で大変深刻な課題を抱えています。私はこの高齢社会はわが国の医療・福祉制度の進歩と充実がもたらしたものと意欲的に捉え、現行の医療保険制度を堅持しつつ財源の確保や介護保険の円滑な導入、あるいは健康づくり県民運動の展開などを地方議員の立場から努力していきたくと考えています。

テーマ：推薦議員

2. 主な政治活動内容

医療・福祉・保健が抱える数多くの課題を克服し、高齢社会の到来に備えるためには県行政の一体化がまず緊急な課題と捉え、県庁の機構改革（保健福祉部の創設）や高齢者保健福祉計画、県保健医療計画の策定等に深く携わってきました。

3. 社会保障領域での活動・関心事

介護保険制度の円滑実施のため、認定審査の広域化や福祉施設等の介護サービスの基盤整備
県民に良質かつ適切な保健医療を効率的に供給するため策定された県保健医療計画の実現のため、病診連携や特定機能病院との連携推進、医療施設近代化に向けて県予算の充実確保
市町村保健センターの整備や保健所の充実と再編統合、かかりつけ医による在宅医療の推進
少子化対策としての子育て支援体制の整備、充実

橋詰 和元 県議会議員

私の政治活動について

私の政治姿勢について、ご報告の機会を与えて戴きまして、有難うございます。

昭和60年と61年に議会では厚生常任委員でございましたが、時代おくれの医療法で非常に困っておられる医療関係の方々のご意見や病院経営の実態に接し、問題討論が始まりました。高齢化や少子化についても議論が多かったのですが、国の下請けのような県の立場の空しさを痛感したものです。

その後、政府も実状に即した政策をとりはじめ、医療法だけではなく、保険から更に介護や看護婦などの問題が取り上げられましたが、いずれも先見性に乏しく、官僚制度の改善を強く認識しました。

私は平成3年から6年まで高齢者対策調査特別委員でしたが、難病問題と健常者以外の人々の高齢化について問題提起をして参りました。

私は議員になりましてから「県民の、県民による県民のための県政」を唱えて言動をしてきたつもりですが、徳川幕府から軍閥幕府、戦後の官僚幕府の国民のための使命感を疑っており、昨年「愛せるくに造り」題名の本を出版し、地方分権、地方自治の実現の必要性を訴えました。

この本は、国立ブダペスト貿易大学アジア学科の第二日本文献文庫に収められたことを知り、国内に同憂の方がおられることに勇気づけられました。

桑原市長が官僚の出身であるにもかかわらず政府の地方分権委員長として官僚を相手に堂々の活躍をされ、わが国の分権及び規制緩和に大変な貢献をされましたが、私も頑張りたいと思います。

古川 忠 県議会議員

県政に参画して早8年。2期目の任期も終わろうとしていますが、それにしても、政治家はもちろん、公務員、それに皆様方医者も含めて『公的仕事に携わる者』が、こんなにも貶められる時代があつていいものではないでしょうか。公にかかわる仕事が、これだけ揶揄、蔑まれて、この先、本当に世の為、人の為に働こうという若い人が育つでしょうか。真面目にやっている人や仕事を、無責任に批評、非難するこの世相に憤りを感じると共に、私達は断固として、公に身を尽くすことの気高さを見せなくてはなりません。

さて、議員としての活動ですが、当初より、教育と福祉。それに、以前から関心を持っていた都市政策の核としての空港問題に主に取り組みで参りました。

現在、国際空港誘致対策調査特別委員長として、板付空港に替わる、安全で、国際化時代に通用する空港の可能性を追及しております。先般、調査団長として、開港間もない香港新空港の視察に行きました。新空港は、あの危険で汚い旧空港や、街のイメージまでも一変させ、アジアの中心都市にふさわしい立派なものでした。経済危機の中、厳しいテイク・オフですが、50年後、100年後をしっかりと見据えたものでした。

次に教育です。2度の文教委員、又、6月に発足させた教育改革議員連盟の副会長として抜本改革に取り組んでいます。戦後50年の日教組の偏向教育、悪平等、無責任主義のツケは、子供の事件だけでなく、社会全体の歪みとして重くのしかかっています。教育は時間がかかりますが、教育のシステム、内容にまで踏み込んだ改革が急務です。

福祉と医療は、現在厚生常任委員として直接携わっている問題です。世界に冠たる国民皆保険を充実しつつ、高齢化・少子化時代に対処しなければなりません。平成12年導入の介護保険制度は不備だらけですが、より良いスタートを切らねばなりません。「年をとる程医療に近づく」現実を考えると、当然ながら医療と福祉の相互乗り入れ、連携が必要になります。しかし実際は、互いの“共通語”すら持たないのが現実です。又、上からの規制や指導も多過ぎます。一人の患者、要介護者という“受け手”の側に立った再構築が迫られています。私は今、医療審議会委員もしておりますが、先般、療養型病床群の論議の中で「かかりつけ医」について、或る先生から「本人がかかっていたら、大学病院の先生もかかりつけ医では…」という御意見がありましたが、それは少し違う気がします。今や、市内なら半径500メートル以内には必ず医療機関がある時代です。特に難しい医療は別として、地域の病院、医院で大半は済む筈です。互いの医療レベルを公開し、連携を密にすることにより、キメ細かな医療、介護に寄与して頂くことを願うものです。

最後に、議会全体の動きを述べさせていただきます。政策審議会副会長として、代表質問の取りまとめや、意見書、請願の扱い等をしておりますが、以前に比べて、議論が非常に活発化してきています。又、「地方議会でも立法能力を持とう」と、敢えて党派を超え、若手議員を中心に「立法研究会」を結成し、座長として皆さんと勉強に取り組んでおります。外から見ると、議会はまだまだ旧態依然の世界に見えるようですが、確実に新しい動きがあります。意見は異なっても真摯な議論ができることが重要です。医師会の先生方とのお付き合いもそうありたいと思っております。

テーマ：推薦議員

横田 進太 県議会議員

1. 所信

私も昭和58年から県議会議員として、議員活動を続けておりますが、その間、日本の政治経済も又世界の状況も大きく変化してまいりました。中でも我々地方議員は、県民のニーズも多様化し県民の皆様が行政に何を求めているのか常に県民の声を聞いて行政に反映させなくてはならないと考えております。

2. 主たる政治活動内容

常任委員会は土木や農林委員会に籍を置き、主に県土の均衡ある発展と農林水産業の振興に頑張っておりまして。今後はソフト面、福祉の充実や教育の振興に頑張りたいと考えております。

3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動、関心事

21世紀を間近にして本格的な少子高齢化社会が到来するわけですが県民が安全で快適な生活が出来る様、これから一層の福祉医療の充実を図らなければなりません。その為、保健サービスの充実、医療供給体制の充実に努めなければなりません。特に高齢化社会への対応には介護保険制度の円滑な導入に向けて、準備を急ぐ必要があります。又、市町村への助成やケアサービス体制への整備をする必要があります。少子化については母親が安心して子供を育てる環境作りが大事である。私も医療福祉の充実の為に更なる努力をしてまいる所存であります。

田中 久也 県議会議員

1. 所信

今回「医療情報室レポート」の発刊にあたり寄稿のご依頼を受けましたが、先ずは貴会より毎回暖かく力強いご推薦を賜っておりますことに対し厚く深く御礼申し上げます。

さて、来る21世紀の「少子・高齢社会」においては、高齢者が長生きして良かったと思われ、現役世代を含めた活力ある社会の建設が重要と考えます。このため私は県民の皆さんが安心して医療、介護サービスを受け豊かに生活できるよう現行医療制度を堅持した社会保障制度の改革と介護保険制度の円滑な導入に向けて、県政の場で力の限り努力する所存であります。

2. 主たる政治活動内容

私は昭和46年初当選し、昭和52年から現在まで厚生委員会の委員長、委員として保健・医療・福祉施策の推進に努めています。その間、県議会議員1期、議会運営委員長4期、決算委員長2回、医療問題議員連盟会長、行財政改革委員長等を勤め県政全般の推進に努めています。その他現在は県医療審議会、国民健康保険審査会等の委員、県メディカルセンター理事として保健医療施策の重要事項の審議、推進に努めています。

尚、医師会館、看護学校の建設にあたりましては微力ではありましたが貴会のご要望通りお手伝い出来たことを誇りに思っております。

3. 社会保障（医療・福祉・保健）領域での活動、関心事

県民に身近な保健・医療・福祉サービスの一元的提供を図るため、行財政改革委員長として、民生部と保健環境部の統合による保健福祉部の設置等、連携と施策の一本化を図っています。2000年にスタートする介護保険の本県における円滑な導入を図るため市町村の広域的取り組みを推進する介護保険対策事業やサービス提供基盤整備のための福祉施策整備事業等の促進に努めています。

医療の高度専門化に伴う医療機関の機能分担と連携の強化を図るため県保健医療計画の策定や診療所等療養型病床群の整備促進、救急医療対策事業の充実、医療施設近代化施設整備事業等良質かつ効率的な医療提供体制の確立に努めています。特に本県で疾病率の高いガン、心臓病等の疾病対策及び予防対策等の保健対策の充実に努力して参る覚悟であります。最後に気がかりなのは少子化問題であります。これは社会全体の活力低下につながる重要課題であるため、子育て支援体制の整備や育児ヘルプ等安心して子どもを生み育てる環境整備を促進しているところでございます。種々申し上げましたが何れも県民が豊かな生活をするための重要な条件であります。これの実現のためには医師会の先生方の更なるご理解とご協力が不可欠であります。このことを心から祈念申し上げて意を尽くしませんが拙筆を置きます。

< 医療情報室の目 >

今回の医療情報室レポートは私共が推薦する国会議員と県議会議員の先生方にアンケート形式で質問したものである。その回答をそのまま掲載致しました。

政治の世界では自民党の一党独裁と何でも反対の野党で成り立っていた55年体制が消滅しました。そして日本は少子高齢化、産業構造の変化など大変革期を迎えております。

このような中での政治の役割は大きく、特に私共が係わっております社会保障政策について推薦の方々がどう考えておられるのか強い関心を持たざるを得ません。

今回はまず、私共の推薦する議員の先生方を知る第一歩としてこの企画を組みました。

会員の先生方の一助になればと願っております。

ご質問の他何かお知りになりたい情報（テーマ）がありましたら医療情報室までお知らせ下さい。
(事務局担当 百富 5852-1501 FAX852-1510)

担当理事 江頭 啓介・山浦 隆宏